ウシオの今と未来をお伝えする

PRISM

第46期報告書

[2008年4月1日～2009年3月31日]

2009年6月発行

株主・投資家の皆さまへ

光のものがたり 光で並べる

光が創る液晶テレビ

CONTENTS

2 光のものがたり
4 光テクノロジー＆フロンティア
6 ごあいさつ
8 第46期の事業概況
10 事業別の概況
14 グループトピックス
15 社会とともに歩むウシオ
16 連結決算
18 株式の状況
19 会社概要

USHIO

ウシオ電機株式会社

光が創る液晶テレビ

光で並べる

薄型テレビやパソコン、携帯電話…
私たちの身の回りに数多く存在する液晶ディスプレイ。
ディスプレイ内に組み込まれた光源（バックライト）からの光で映像を映し出すその仕組みには、光が持つ性質が巧みに利用されています。

光は「波」

たとえば、ロープを持った手を上下に振ると、その縦方向の動きはロープの反対側まで波打ちながら伝わります（図1-1）。横でも斜めでも、ロープはあらゆる方向の振動を伝えることができます（図1-2、1-3）。実は、光も同じように、あらゆる方向に振動している「波」が混ざり合っています。液晶ディスプレイはこの「光」によって映像を再現していますが、いろいろな方向の光の波が存在すると、ディスプレイ内で光が漏れたり乱反射するなど、鮮明な画像を表示することができません。そこで、さまざまな方向性を持った光の波の中から、コントロールしやすい、規律の正しい一定方向の光（これを“偏光”といいます）のみを取り出す必要があります。

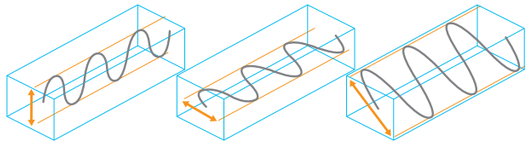


図1-1　図1-2　図1-3

光を「通す？通さない？」

この偏光を取り出すものが「偏光板」というもので、液晶ディスプレイには、この偏光板が2枚使用されています。偏光板は、その偏光板の方向と一致している振動方向の光しか通さない仕組みになっています（偏光サングラスも同じ原理で、一定方向の光のみを透過しています）。

そのため、図2のように、2枚の偏光板を同じ向きで置くと光は通り抜け、図3のように、2枚目を異なる方向でおくと、光は通り抜けることができなくなります。このようにして、液晶ディスプレイは「偏光」を取り出し、活用しているのです。

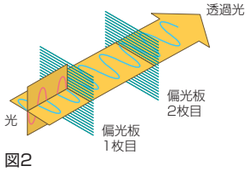


図2

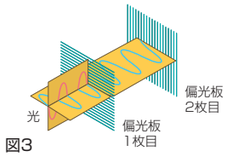


図3

光は「液晶分子にそって進む」

さらに液晶ディスプレイには、この2枚の偏光板の間に「液晶分子」の層があり、“光は分子にそって進む”という光の性質が活かされています。1枚目の偏光板を通り抜けた光は、そのまま液晶分子の層を通り抜けようとしますが、そのタイミングで液晶分子に電圧をかけると液晶分子の並びが変化し、その変化した液晶分子の並びにそって、光は方向を変えるのです。

たとえば、ノートパソコンなどで使用されている液晶ディスプレイでは、偏光板の間の液晶分子は、あらかじめ90度ねじれた状態で配列されています。電圧をかけていない状態では、ねじれた液晶分子にそって光もねじれ、2枚目の偏光板を通り抜けて画面を明るく照らします（図4）。

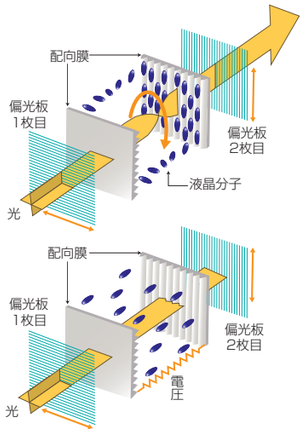


図4（上）光が通り抜けて画面が明るくなる
図5（下）光が遮られて画面は「黒」になる

一方、液晶分子に電圧をかけると、液晶はまっすぐの配列に変化します。すると、光は方向を変えることができないため、2枚目の偏光板を通り抜けることができず、画面は「黒」になります（図5）。

これに、光に色彩をつけるカラーフィルタなどを組み合わせることで、色鮮やかなカラー映像が再現できるのです（図6）。

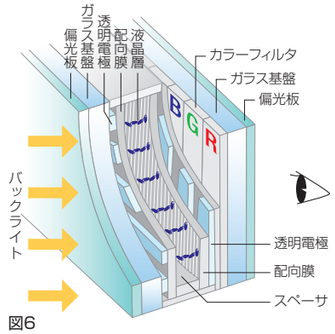


図6

決め手は、液晶分子の「並べ方」

このように、液晶分子が電圧によって光をコントロールし、光のシャッタの機能を果たすためには、液晶分子が規則正しく並んでいなければなりません。液晶分子は、分子同士で結晶のようにくっつき、並ぼうとする性質がありますが、何もしない状態ではバラバラで無秩序なままです。この液晶分子を「任意の方向に正しく整列させる」という重要なプロセスが「配向処理」です。

現在の配向処理には、「布でこする」「突起物を配置してそわせる」という方法がありますが、歩留まりやコスト、環境面、画質の点など、さまざまな問題を抱えています。これらの問題を解決したのが、ウシオの「光配向技術」です。光で液晶分子を整列させることで、液晶ディスプレイの省エネ、高画質、コストダウンを可能にしました。

省エネ・高画質・コストダウン

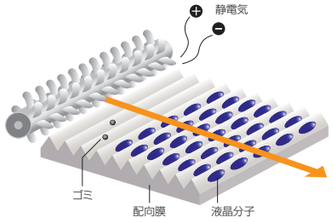
液晶を変えた、ウシオの光配向技術

省エネルギーで高品質な次世代液晶ディスプレイを実現する「光配向技術」。ウシオは、光による配向技術の可能性に着目し、1995年から開発をスタートさせました。
そこには、ウシオがこれまで培ってきた紫外線偏光技術や露光技術を中心に、光源・光学設計、精密搬送、アライメントなど、さまざまな要素技術が活かされています。

これまでの配向処理

現在、液晶テレビ製造プロセスで行われる配向処理には、下の図1、図2のように、2つの方法がありますが、それぞれに課題を抱えていました。

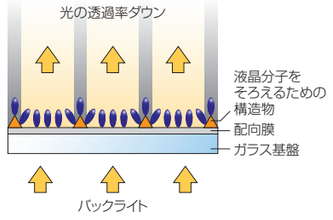
A. 細かい刷毛のような布で直接配向膜をこすり、機械的に液晶分子の方向を整える



微細なゴミ（パーティクル）や静電気が発生し、歩留まりが低い。また、配向膜をこする布は高価な上、頻繁に取り替える必要があるため、生産コストやリードタイムの面で問題がある。

図1

B. 液晶分子を適切な方向にそろえるための構造物を配置する



構造物自体が光の透過率を低下させる。また、液晶分子の並びに乱れを生じさせたり、反応速度の遅さも問題。

図2

新しい光のソリューション

左ページの「**A**」「**B**」2つの方法の課題に対し、ウシオは新しい光のソリューションを提供しています。液晶分子の並ぶ方向を光でコントロールする「光配向技術」です。

「**A**」に対しては、UVキュア（光硬化）技術をベースに、光による「非接触処理」を行うことで、ゴミや静電気の問題を解決しました。さらに、画質の改善や、洗浄工程が不要となることから、コスト削減をも可能にしました。

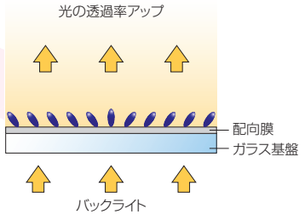


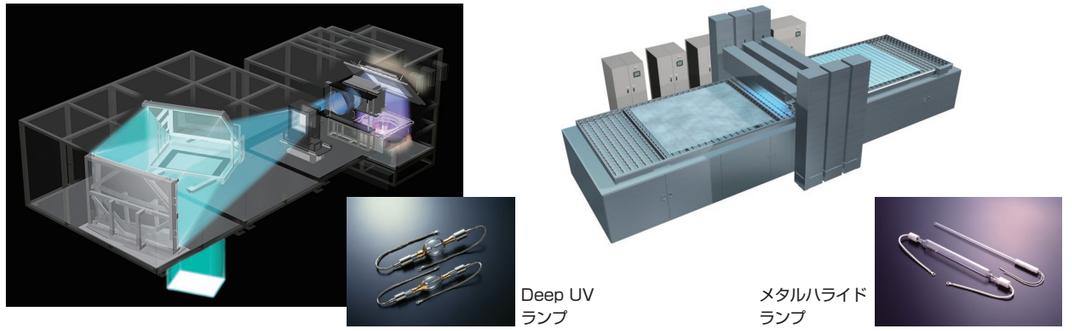
図3

また、「**B**」に対しては、露光技術を活用し、図3のように構造物のいらない配向処理を可能にしました。これにより、構造物を配置する製造工程を削減するだけではなく、コントラスト向上、液晶分子の反応速度向上にくわえ、バックライトからの光の透過率を上げることで、バックライトの光を有効活用でき、液晶パネル自体の消費電力を10%程度削減できます。

「光」で省エネ、高画質、コストダウン

現在、テレビメーカー各社では、今後の成長市場を見据え、世界をリードする高性能液晶テレビの研究開発を加速させています。その過程において、最も重視されている「省エネ化」「高画質化」「コストダウン」を、ウシオは「光配向技術」で実現しました。

現在の液晶テレビでは、バックライトの光を100%とした場合、ディスプレイ前面まで透過する光は10%以下といわれています。さらなる低消費電力化、高画質化、低価格化を実現するために、ウシオは、「光」の技術で次世代液晶テレビの開発に貢献しています。



光配向装置（イメージ図）と使用するランプ

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、
ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、日頃より格別のご支援ご鞭撻を賜り、
厚く御礼申し上げます。
ここに、第46期(2009年3月期)報告書「PRISM」を
お届けし、当期のウシオグループの事業環境や
各事業の概況、および今後の取り組みなどについて
ご報告申し上げます。

世界同時不況の中、各利益項目で黒字を確保

2009年3月期は、世界的な金融危機が実体経済に波及し、需要の収縮や円高による輸出産業の採算悪化により、かつてない速さで企業業績が悪化しました。このような状況下において、企業による設備投資の中止や延期、個人消費の落込みは急速に拡大しました。

特に、液晶や半導体業界などのエレクトロニクス業界では、ここ数年好況であった反動もあり、景況悪化による最終製品の市場縮小に伴って、一気に在庫調整、減産へと至りました。このため、当社のエレクトロニクス向け製造装置およびリプレイスランプも大きな影響を受ける結果となりました。

デジタルシネマ向けなどの大型プロジェクタについては、3D映像コンテンツの供給が増加したことや、日本、欧州など米国以外の国と地域にも急速に普及しはじめていることから、需要が拡大しました。また、映画館用以外の大型プロジェクタについても、スポーツイベント向けなどが比較的堅調に推移しました。しかし、データプロジェクタは、企業業績の悪化および教育機関における予算削減のあおりを受け、初めて販売数量が前期を下回ったため、当社のデータプロジェクタ向けランプでは減収となりました。

生産性の向上およびコスト削減については、従来からの開発・生産・販売の効率化に加え、とりわけ第3四半期以降は急激に需要が減退するという見通しに立ち、緊急対策として役員報酬のカットや設備投資の見直しをはじめとする、さまざまなコスト削減策を講じました。

これらの結果、2009年3月期の業績は、連結売上高1,208億4千6百万円(前期比18.4%減)、営業利益89億6千3百万円(同55.3%減)、経常利益99億9千1百万円(同57.2%減)、当期純利益34億8千1百万円(同77.5%減)となりました。

なお、配当金につきましては安定的な配当に努めておりますが、当期は1株につき20円とさせていただきます。また、適正株価の維持および機敏な経営遂行のため、今後も適時自己株式の取得を行っていきます。

今後の市場について

2008年の秋以降、液晶パネルメーカーの稼働率は大きく減少しましたが、2009年4月には回復の兆しが見えはじめました。しかし、半導体業界では、需要に対して供給能力過剰の状況が続いており、本格回復まではもう少し時間がかかるとみられます。また、データプロジェクタ市場やOA機器業界でも、引き続き景気の回復を待たねばならないと予想しています。しかし、大型プロジェクタ事業ではリプレイスランプが比較的順調であったほか、米国の映画館などの大型プロジェクタの運転状態を24時間モニタリングする施設の拡張工事が完了し、稼働を始めており、総合的事業の発展が期待されています。

アジアマーケティング統括室、新規開拓室を設置

2009年4月、当社はさらなる成長を目指すという決意のもと、これまでの製品別組織を市場別組織に再編成し、同時に新組織を横断的にカバーする社長直轄のアジアマーケティング統括室と新規開拓室を設置しました。アジアマーケティング統括室では、成長が見込まれる中国などアジア地域での販売・マーケティング活動を行い、積極的な事業展開を支援します。また、新規開拓室では、本年4月の新しい中期ビジョンに基づき、商品開発からM&A、事業提携まで幅広く新規事業を視野に入れた多様な活動を開始しており、順次成果がでてくるものと期待しています。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

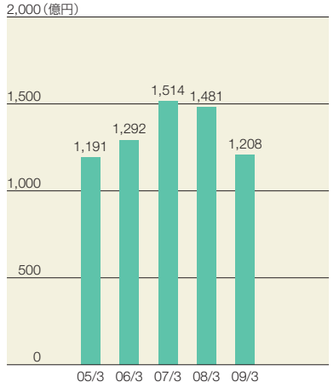
2009年6月吉日
代表取締役社長・CEO
菅田史朗

中期ビジョン

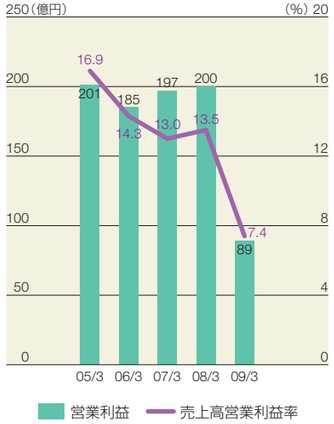
1. **デジタルシネマ事業の着実な展開とノンシネマ事業への取り組み**
   3D映画の公開にあわせて、北米のみならず、欧州、アジアでもデジタルシネマが普及すると思われます。また、映画以外の用途(ノンシネマ)の事業や、メンテナンス・サポートビジネスも拡大していく計画です。
2. **環境を念頭においた事業展開**
   環境問題のソリューションを事業化していきます。LEDを使用した電球など、環境配慮製品の開発を促進します。
3. **固体光源の事業展開**
   半導体レーザ、LEDなど、固体光源の事業展開を積極的に進め、ユーザーに多様な光源を提供していきます。
4. **業務提携、合弁事業、M&Aの積極的推進**
   従来ウシオグループでは、継続的に業務提携やM&Aを行ってきましたが、新事業を展開し高い成長率を実現するためには、M&Aおよび事業提携が重要な手段と考えており、この時期をむしろ好機ととらえることで、さらに推進します。
5. **最先端露光事業の開発強化**
   2008年にウシオの100%子会社となったドイツのエクストリーム社を中心に、提携先のオランダフィリップス社とともにEUV光源の数年後の量産レベルを視野に入れ、積極的な開発を進めています。
6. **液晶・半導体・高精細プリント基板分野に貢献する技術・製品の提供**
   光源と装置の複合技術を活かした取り組みにより、これら業界に必要とされる技術・製品を提供します。
7. **新製品・新分野への積極的取り組みと既存製品の強化**
   医療分野における血液分析装置や紫外線治療器など、これら新規事業をさらに展開し、同時に既存製品の競争力をアップしていきます。

数字で見るウシオ（連結ベース）

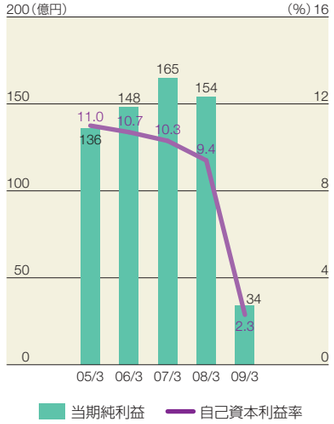
売上高



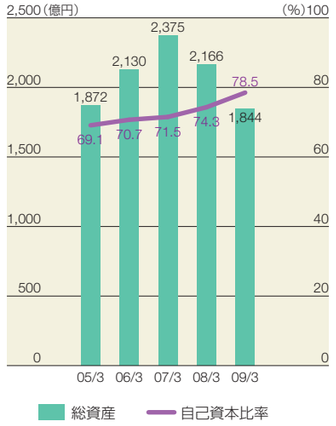
営業利益／売上高営業利益率



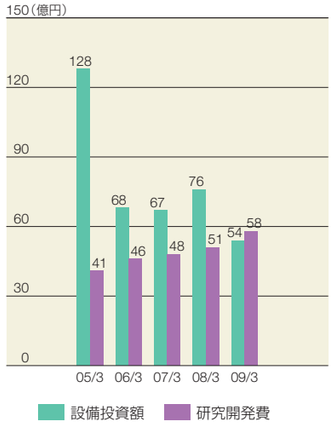
当期純利益／自己資本利益率（ROE）



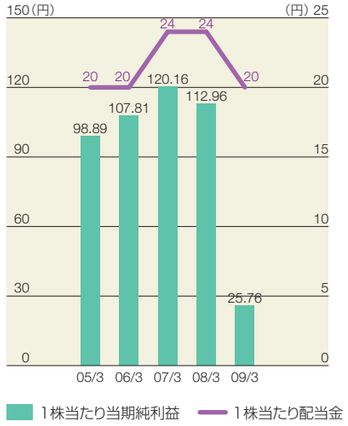
総資産／自己資本比率



設備投資額／研究開発費

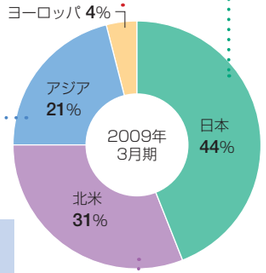


1株当たり当期純利益／1株当たり配当金



所在地別の業績

売上高構成比



ヨーロッパ

主要事業分野のひとつである一般照明用および特殊照明用ランプの需要が減少しました。また、当期より新光源である極端紫外線（EUV）研究開発会社エクストリームが連結子会社に加わったことにより研究開発投資が増加し、売上高は対前期比19.5%減の64億3百万円、営業損失5億1千5百万円となりました。

日本

液晶・半導体関連市場の設備投資延期による影響を受け、関連する製造装置の出荷が減少したことに加え、設備稼働率の低下による露光用リプレイスランプなど各種ランプの販売も減少しました。また、産業機械の需要も低迷した結果、売上高は対前期比17.6%減の620億6千7百万円、営業利益は対前期比66.5%減の35億9千3百万円となりました。

アジア

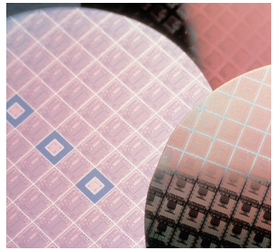
液晶・半導体関連製造装置の需要は上半期において堅調に推移していたものの、下半期からの設備投資延期、製造ラインの設備稼働率低下による影響を受け、露光用リプレイスランプなど各種ランプの需要が急速に減少しました。また、データプロジェクタ用高輝度放電ランプにおいても、市場成長鈍化と他社との競合による価格低下により、売上が減少しました。その結果、売上高は対前期比16.0%減の304億5千万円、営業利益では、対前期比34.0%減の39億3千7百万円となりました。

北米

デジタルシネマプロジェクタの出荷台数が伸びたものの、米国経済の景気減速の影響を受けノンシネマ事業および一般照明の需要が減少しました。米国半導体主要ユーザによる工場移転に伴いヒータランプ、露光用 UVランプの需要が大幅に減少しました。その結果、売上高は対前期比20.5%減の436億1千8百万円、営業利益では対前期比48.8%減の13億9千万円となりました。

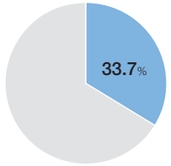
＊ 所在地別売上高および営業利益は、セグメント間の内部売上高または振替高を含んだ数値を記載しています。

エレクトロニクス分野

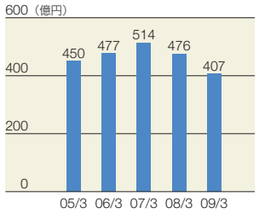


主なグループ会社
ギガフォトン株式会社
XTREME technologies GmbH

連結売上高に占める割合
(2009年3月期)



売上高



世界的な景気減速に伴う液晶・半導体関連市場の設備稼働率低下の影響を受け、各種のリプレイス需要が減少

2009年3月期の液晶関連市場では、第3四半期以降の個人消費の落ち込みから液晶テレビの価格下落が進行するとともに、液晶パネルメーカー各社の減産と在庫調整が急速に進行しました。これにより、ウシオのリプレイスランプおよび製造装置の需要がともに急速に悪化しました。

半導体市場においても、DRAMやフラッシュメモリの価格が低迷することで、設備稼働率が低水準で推移し、設備投資も先送りが顕著になった結果、リプレイスランプおよび装置の需要はともに落ち込みました。

露光装置メーカー向けにKrFおよびArFエキシマレーザを提供しているギガフォトンの業績も、景況悪化とともに急速に悪化しました。

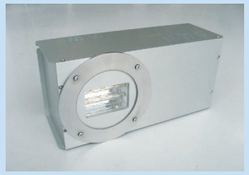
2009年4月には液晶パネルメーカーの稼働率に回復の兆しが見えはじめたため、液晶分野では業績の回復が見込まれます。しかし、半導体業界では、需要に対して供給能力過剰の状況が続いており、本格回復まではもう少し時間がかかるものと予想されます。

Column

レーザを用いず半導体製造用レジスト、材料開発を可能に

世界ではじめて、ArFエキシマレーザと同じ波長である193nmの単色光を発する誘電体バリア放電エキシマランプを開発し、販売を開始しました。これにより、線幅32nmの実現を目指す半導体リソグラフィ用レジストや材料の研究・開発において、高価なレーザが不要となり、大幅な開発費の節減と柔軟な研究開発を可能にしました。

ArFエキシマランプ

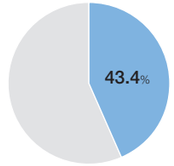


ArFエキシマランプを搭載した照射ユニット

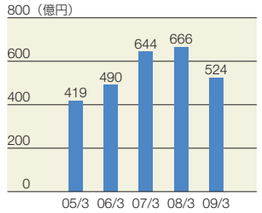
映像・画像分野

主なグループ会社
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, U.S.A., INC
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, CANADA INC
株式会社ジーベックス
クリスティ・デジタル・システムズ日本支社

連結売上高に占める割合
(2009年3月期)



売上高



景況悪化の中、デジタルシネマ向けリプレイスランプは堅調に推移

デジタルシネマプロジェクタ（DCP）は、北米のデジタルシネマ大型普及促進プログラムの開始が遅れたため、販売台数は伸び悩みましたが、最終的には前期比145台増の1,880台となりました。リプレイスランプの売り上げも、年間を通して堅調に推移しましたが、これは、DCPの売り上げ増加と、欧州、アジアなど北米以外で3Dシネマが本格化し、デジタルシネマ用ランプの需要が増加したためです。しかし、増加したDCPが中小型機種であることと為替の影響により、金額ベースでは減少しました。また、ノンシネマ用途は市況悪化の影響を受け計画水準は下回ったものの、比較的堅調に推移しました。

そのほか、映像・画像分野では、北米の映画館などを対象に、大型プロジェクタの運転状態を24時間モニタリングする施設の拡張工事が完了し、すでに稼働を開始しています。

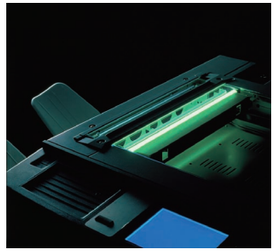
データプロジェクタ用ランプについては、下期から景気の影響を受け、市場の縮小とともに価格競争が激化したため、市場全体の成長も鈍化しました。

Column

クリスティ・デジタル・システムズ（CDS）に、新ネットワーク オペレーションセンター完成

CDSのロスアンジェルス・オフィス内に新しいネットワーク オペレーションセンターが完成しました。この施設は、北米の映画館など、約8,700スクリーンを24時間365日、モニタリングしています。また、コントロールルーム製品のデモルームとしても使用されています。

OA分野

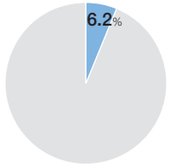


主なグループ会社

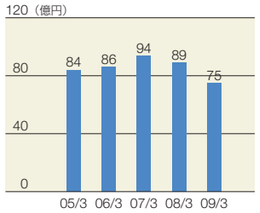
USHIO HONG KONG LTD.

USHIO (SUZHOU) CO., LTD.

連結売上高に占める割合
(2009年3月期)



売上高



OA機器向けランプの売り上げも減少

従来、景気の変動に左右されにくかったOA機器業界も、2008年度の後半には、世界同時不況の影響を大きく受けました。ウシオグループではプリンタ・複写機などのOA機器に内蔵される光源を提供していますが、ユーザーであるOA機器メーカーの販売不振により、ウシオのランプも減収を余儀なくされました。

昨今のOA機器に求められる開発テーマは「省エネルギー」です。ウシオグループでは、ランプの省電力化とともに、待機状態からの立ち上がりを早めるクイックレスポンスなど、ランプの省エネ課題に積極的に取り組んできました。こうしたきめ細かな開発が高く評価され、読み取り用ランプは、大手OA機器メーカー全社に納入されており、世界シェアで約65%を確保しています。

今後も「省エネ」、「環境」をキーワードとした高付加価値商品の開発を促進させていきます。

Column

トナー定着用高効率ランプが好調
—熱効率を15%向上—

従来品に比べて熱効率を15%向上させたトナー定着用ハロゲンランプは、2007年の開発以来、複写機の省エネ化を進めるOA機器メーカー各社から高く評価されています。熱効率の向上により、ローラーの表面温度が適温に達する時間が早まり、待機時間の短縮につながっています。

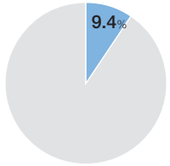
ハロゲンヒーターランプ

照明分野

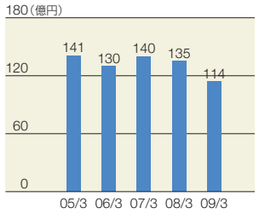
主なグループ会社

ウシオライティング株式会社
株式会社ウシオスペックス

連結売上高に占める割合
(2009年3月期)



売上高



省エネ・環境配慮型製品が評価

ウシオグループでは、店舗用のハロゲンランプ、テレビ局や舞台照明用のクセノンランプなど、各種照明装置や光源を提供しています。2009年3月期は景気低迷の影響を受け減収となりましたが、省エネ志向に対応したLEDを使った照明を発表し、反響を呼びました。また、サンマ漁などの漁業で使用される省エネ集魚灯も、環境の取り組みに対する賞を受賞、高い評価を得ています。

ウシオグループでは、照明市場においても、さまざまな顧客のニーズに応える、多彩な光を提供していきます。

暖かみのある白熱電球の光が持つイメージをそのままに、LED照明で再現

Column

電球型LEDランプ「LEDフィラメント電球」を開発、サンプル出荷を開始

ウシオライティングは、白熱電球用のソケットでも使用可能な、電球型LEDランプ「LEDフィラメント電球 Let（レット）」を開発、販売を開始しました。

Letは、従来型白熱電球（装飾電球）10Wクラスの見た目での明るさ*と印象を兼ね備えています。また、5Wクラスの白熱電球(装飾電球)と比較して、約11%の消費電力*と10倍の長寿命*を達成しています。このため、CO_2の排出量や電気代を大幅に低減させると同時に、電球の使用数量、使用後の電球廃棄量も抑制できるため、省エネ、環境負荷低減に貢献します。

＊一般的な白熱電球(装飾電球)との比較(ウシオライティング調べ)

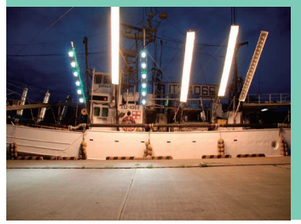
クリスティ製プロジェクタ、グラミー賞授賞式に5年連続して採用

2009年2月に行われた第51回グラミー賞授賞式で、クリスティ・デジタル・システムズのデジタルプロジェクタが、5年連続して採用されました。

舞台を横断するリアプロジェクション用のカーブしたスクリーン8枚（縦2.7×横4.9メートル）には、8台の大型プロジェクタが採用され、アーティスト名や楽曲にマッチしたイメージ画像を投影しました。また、ステージ上の巨大縦型スクリーン（縦6.4×横3.4メートル）には、2台重ねて使用されたほか、観客のモニター用にも2台設置され、縦4.1×横7.3メートルのスクリーンに中継の様子を映し出しました。

省エネ集魚灯が環境大臣表彰、農林水産大臣賞を受賞

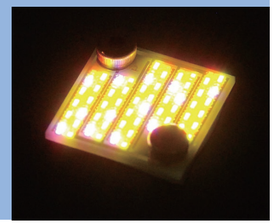
ウシオライティングの新しい省エネ集魚灯、「U-BEAM. eco（ユウビーム・エコ）」（サンマ漁用）が、第5回エコプロダクツ大賞 エコプロダクツ部門 農林水産大臣賞および平成20年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞しました。U-BEAM. ecoは、従来の白熱灯に対して発光効率の高いメタルハライドランプを搭載した集魚灯です。特にサンマ漁では、竿あたりのランプ灯数を大幅に減らしながら白熱灯以上の海中への光浸透力と明るさを確保できるため、従来の白熱灯と比べて約85%～90%*の照明用燃料費削減を可能にしました。



＊ ウシオライティング調べ

独自開発の高集積LEDモジュールを発表

ウシオライティングが、世界初*のLED素子実装密度を実現、まったく新しい放熱技術を採用した「高集積LEDモジュール」を実用化しました。独自の研究、開発により完成させた高集積LEDモジュールは、±約30μmという精度で、14mm×14mmの基板上に最大327個までLED発光素子をマウントさせることができます。また、マウントにおいては、基板の素材見直しや、まったく新しい接着方法・素材を採用することで、これまで困難とされていたLEDの放熱問題を解消する技術を開発し、長寿命かつ信頼性と質の高いLEDを実現しました。



＊ ウシオライティング調べ（2009年2月26日現在）

日経優良企業ランキングで、総合44位に

日本経済新聞社、日経リサーチによる多角的企業評価システム「PRISM（プリズム）*」優良企業ランキングの2007年度総合順位で、2006年度の91位（787点）から44位（843点）に大幅にランクアップしました。これは、ウシオ電機のグローバルなビジネスの展開、それによる増収、経常利益における増益が高く評価されたものです。

また、「柔軟性・社会性」の項目でも、環境経営、リスク管理への取り組みや、積極的な海外の投資家向けIR活動などが評価の対象となったほか、「開発・研究」「若さ」など、すべての項目でバランスよく評価されたことが、ランクアップにつながりました。

ウシオはこれからも、グループ一丸となってバランスの取れた事業展開を積極的に推進してまいります。

＊ 日本経済新聞社、日経リサーチが共同開発した企業評価システム。国内2,251社を対象に、「柔軟性・社会性」「収益・成長力」「開発・研究」「若さ」の4つの評価項目と専門家による総合評価から、優れた企業をランキングする。財務データなどの公表数値だけではなく、企業活動や組織体制なども含め、多角的に評価しているのが特徴。

児玉 桃さん、芸術選奨新人賞を受賞

ウシオが2008年9月から12月にわたり、5回のシリーズ公演を協賛した「メシアン・プロジェクト2008」の功績により、ピアニストの児玉 桃さんが平成20年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞しました。

児玉 桃さんは、長くフランスに住み、古典から現代作品まで幅広いレパートリーで活躍しているピアニストです。

ウシオでは、日本人でありながら欧米の音楽界で活躍する児玉さんの活動を応援し、「メシアン・プロジェクト2008」に協賛いたしました。

公演の演出にはクリスティ・デジタル・システムズのデジタルプロジェクタが使用され、映像とピアノ演奏のコラボレーションが、音楽業界内外で高い評価を受けました。

中国の蘇州大学と奨学金制度の協議書を締結

中国の製造会社、牛尾電機（蘇州）有限公司は、2009年1月16日に中国の蘇州大学との間で「蘇州大学牛尾電機奨学金」制度の協議書を締結しました。

これは、同社が2008年9月7日に設立した、中国江蘇省において初の外資による教育事業への貢献を目的とした非営利性基金会、「江蘇牛尾英才助学基金会（以下、基金会）」の事業第1号となるものです。基金会は、経済的な理由で大学進学・進級が困難な中国の地方部において、人材育成を中心に、科学研究、技術開発などの社会公益事業に貢献することを目的としており、今後は蘇州大学以外の大学にも事業適用を広げていく予定です。

貸借対照表

（単位：百万円）

科目	第46期 (2009.3.31)	第45期 (2008.3.31)
資産の部		
流動資産	102,706	111,914
現金及び預金	28,220	31,412
受取手形及び売掛金	27,380	37,074
有価証券	6,518	2,587
たな卸資産	–	29,951
商品及び製品	16,446	–
仕掛品	5,357	–
原材料及び貯蔵品	6,989	–
その他	11,792	10,889
固定資産	81,695	104,744
有形固定資産	36,850	38,227
建物及び構築物	17,110	18,334
機械装置及び運搬具	5,529	6,253
土地	8,579	8,849
その他	5,631	4,790
無形固定資産	2,540	2,994
投資その他の資産	42,303	63,522
投資有価証券	37,648	59,521
その他	4,654	4,001
資産合計	184,401	216,659

科目	第46期 (2009.3.31)	第45期 (2008.3.31)
負債の部		
流動負債	26,744	38,159
支払手形及び買掛金	9,796	15,214
短期借入金（1年以内の長期借入金含む）	7,234	8,727
その他	9,713	14,218
固定負債	11,882	16,407
長期借入金	3,888	2,962
繰延税金負債	4,480	10,146
その他	3,513	3,298
負債合計	38,626	54,567
純資産の部		
株主資本	144,250	148,122
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	28,371	28,371
利益剰余金	105,524	105,323
自己株式	△9,201	△5,127
評価・換算差額等	469	12,837
その他有価証券評価差額金	7,832	17,150
為替換算調整勘定	△7,363	△4,313
少数株主持分	1,054	1,132
純資産合計	145,774	162,092
負債純資産合計	184,401	216,659

損益計算書

（単位：百万円）

科目	第46期 (2008.4.1～2009.3.31)	第45期 (2007.4.1～2008.3.31)
売上高	120,846	148,148
売上原価	81,644	98,020
売上総利益	39,202	50,127
販売費及び一般管理費	30,238	30,076
営業利益	8,963	20,050
営業外収益	4,349	5,835
営業外費用	3,321	2,566

科目	第46期 (2008.4.1～2009.3.31)	第45期 (2007.4.1～2008.3.31)
経常利益	9,991	23,319
特別利益	7	0
特別損失	4,456	1,783
税金等調整前当期純利益	5,542	21,535
法人税等	1,839	5,889
少数株主利益	221	160
当期純利益	3,481	15,486

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	第46期 (2008.4.1～2009.3.31)	第45期 (2007.4.1～2008.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,873	15,237
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,194	△10,041
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,588	△85
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,461	△2,532
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△371	2,578
現金及び現金同等物の期首残高	27,700	25,122
現金及び現金同等物の期末残高	27,329	27,700

株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

第46期 (2008.4.1～2009.3.31)	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2008.3.31 残高	19,556	28,371	105,323	△5,127	148,122	17,150	–	△4,313	12,837	1,132	162,092
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当（注）			△3,279		△3,279						△3,279
当期純利益			3,481		3,481						3,481
自己株式の取得				△4,073	△4,073						△4,073
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						△9,317	–	△3,049	△12,367	△77	△12,445
連結会計年度中の変動額合計	–	–	201	△4,073	△3,872	△9,317	–	△3,049	△12,367	△77	△16,317
2009.3.31 残高	19,556	28,371	105,524	△9,201	144,250	7,832	–	△7,363	469	1,054	145,774

（注）平成20年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

（単位：百万円）

第45期 (2007.4.1～2008.3.31)	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2007.3.31 残高	19,556	28,371	93,141	△2,984	138,084	30,594	42	1,124	31,761	891	170,738
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当（注）			△3,304		△3,304						△3,304
当期純利益			15,486		15,486						15,486
自己株式の取得				△2,143	△2,143						△2,143
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						△13,443	△42	△5,437	△18,924	240	△18,684
連結会計年度中の変動額合計	–	–	12,181	△2,143	10,038	△13,443	△42	△5,437	△18,924	240	△8,646
2008.3.31 残高	19,556	28,371	105,323	△5,127	148,122	17,150	–	△4,313	12,837	1,132	162,092

（注）平成19年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況（2009年3月31日現在）

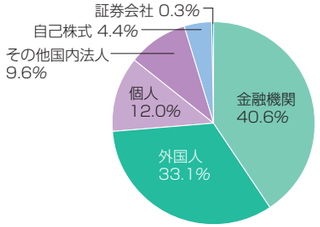
発行済株式総数……139,628,721株
株主…… 14,689名

大株主の状況（200万株以上）

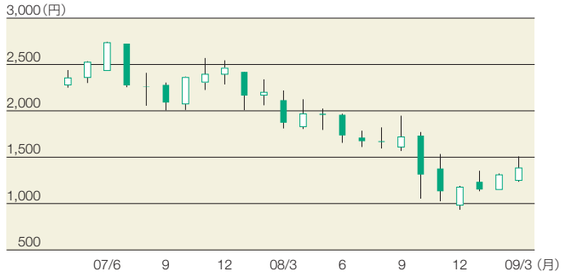
株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	9,905	7.09
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,663	4.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4G）	6,432	4.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	6,252	4.47
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ピー リミテッド	4,987	3.57
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83
アールビーシー デクシア インベスター サービシーズ トラスト, ロンドン レンディング アカウント	3,663	2.62
株式会社りそな銀行	3,616	2.58
牛尾治朗	3,201	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口）	3,200	2.29
オーエム04 エスエスビー クライアント オムニバス	2,817	2.01
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	2,742	1.96
財団法人ウシオ育英文化財団	2,400	1.71
ノーザン トラスト カンパニー（エイブイエフシー）サブ アカウント アメリカン クライアント	2,262	1.62
メロン バンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,041	1.46

※ 上記のほか、当社が所有している自己株式6,077千株があります。
※ 大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。
また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

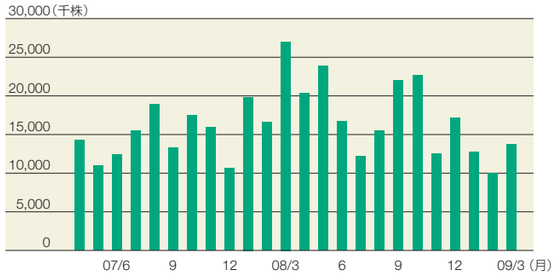
株式の分布状況



株価の動き



株式売買高



設立　1964年3月
資本金　19,556,326,316円

役員（2009年6月26日現在）

代表取締役会長	牛尾　治朗
代表取締役社長	菅田　史朗
取締役	後藤　学
取締役	大島　誠司
取締役	多木　正
取締役	牛尾　志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野　裕明
取締役相談役	田中　昭洋
常勤監査役	中一　進
常勤監査役（社外）	物江　理
常勤監査役	中山　繁樹
監査役（社外）	服部　秀一
監査役（社外）	麻生　紘二

従業員数（2009年3月31日現在）

ウシオ電機本体	1,721名
国内グループ計	506名
海外グループ計	2,393名
合計	4,620名

事業所一覧（2009年3月31日現在）

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
横浜事業所	神奈川県横浜市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪市淀川区

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社
兵庫ウシオライティング株式会社
筑波ウシオ電機株式会社
株式会社ジーベックス
株式会社ウシオスペックス
ギガフォトン株式会社
日本電子技術株式会社
株式会社エピテックス　他4社

海外グループ会社

開発・製造

北米
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.
- VISTA CONTROLS SYSTEMS, CORP.

欧州
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- XTREME technologies GmbH

アジア
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

販売

北米
- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.

欧州
- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO U.K., LTD.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO FRANCE S.A.R.L.

アジア
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO SINGAPORE PTE LTD.
- USHIO LIGHTING (HONG KONG) CO.,LTD.
- USHIO SHANGHAI, INC.

他11社

株主メモ

決　算　期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基　準　日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当制度は採用しておりません。
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株

株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社　証券代行部 **0120-78-2031（フリーダイヤル）** http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html （ホームページ）
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社　全国各支店 日本証券代行株式会社　本店および全国各支店

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正（平成20年4月30日法律第23号）により、平成21年1月以降にお支払いする配当金について株主さま宛に配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが義務づけられました。

配当金領収証にてお受取りの株主さまは年末または翌年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。口座振込を指定されている株主さまは配当金支払いの際送付している「配当金計算書」が「支払通知書」となります。なお、両書類は確定申告を行う際その添付資料としてご使用いただくことができます。

株主さまのご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主さまのご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字などが含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主さまにご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主さまのご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

発行：ウシオ電機株式会社 広報IR室
〒100-8150　東京都千代田区大手町2-6-1
TEL: 03-3242-1815　FAX: 03-3245-0589
http://www.ushio.co.jp

P・R・I・S・M　PRISM（プリズム）は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。

PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は、環境に優しい再生紙と、大豆インキを使用しています。

0906G①-15,700K①